

JEITA

電子情報技術産業協会規格

Standard of Japan Electronics and Information Technology Industries Association

JEITA CP-5113B

地上デジタルテレビジョン放送及びFM放送 受信アンテナ試験方法

**Testing Methods of Receiving Antennas
for Terrestrial Digital Television and FM Broadcast Transmissions**

2011年5月制定

2022年9月改正

作 成

AV&IT 標準化委員会

AV & IT Standardization Committee

発 行

一般社団法人 電子情報技術産業協会

Japan Electronics and Information Technology Industries Association

目 次

ページ

まえがき

1 適用範囲	1
2 用語及び定義	1
3 試験条件	3
4 試験機器及び装置	5
5 試験	7
6 試験項目	12
7 試験結果の図示方法	12
参考	18
解説	22

まえがき

この規格は、一般社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）AV&IT 標準化委員会 受信システム・アンテナ標準化グループが JEITA TSC-16（電子情報技術産業協会規格類の作成基準）の様式によって作成したものである。

この規格は、著作権法によって保護されている著作物であるため、許可なくこの規格の一部又はすべてを複製・転載することを禁止する。

この規格は、この規格の一部が、工業所有権（特許権、実用新案権、意匠権など）に抵触する可能性に関係なく制定されている。一般社団法人 電子情報技術産業協会は、このような工業所有権に係る確認について、責任はもたない。

電子情報技術産業協会規格

地上デジタルテレビジョン放送及び FM 放送 受信アンテナ試験方法

Testing Methods of Receiving Antennas for Terrestrial Digital Television and FM Broadcast Transmissions

1 適用範囲

この規格は、屋外で使用する 76MHz から 95MHz と 470MHz から 710MHz までの周波数帯域の地上デジタルテレビジョン（UHF）放送及び FM 放送受信アンテナ（以下、受信アンテナという。）の電氣的諸特性を比較評価するための試験方法について規定する。

2 用語及び定義

この規格に用いる主な用語の意味は、次による。

2.1

利得

利得には、次に定義する有能利得と動作利得があるが、この規格では、動作利得をいう。

a)

有能利得

有能利得とは、均一な電界の中にある受信アンテナの指定方向¹⁾の受信有能電力と、同一条件のもとに設置した半波長ダイポールアンテナの受信有能電力との比をいい、dB で表す。

注¹⁾ 指定方向とは、多くの場合最大放射方向をいう。

b)

動作利得

動作利得とは、有能利得から、受信アンテナのアンテナインピーダンスと給電線の特性インピーダンスの不整合による損失を減じたものをいい、dB で表す。

また、多基合成アンテナの利得²⁾も動作利得のことをいう。

注²⁾ 多基合成アンテナの利得とは、指向性の最大方向の動作利得をいい、dB で表す。ただし、ヌル可変型アンテナにおいては、正面に対し 30 度方向にヌルを形成したときの動作利得をいう。

（以下、利得以外の特性においても本条件による。）

2.2

指向性

指向性とは、指定平面においてあらゆる方向に対するアンテナの出力電圧とそのうちの最大出力電圧の比をいう。

2.3

前後比

前後比とは、指定平面における受信アンテナの指定方向（角度 0 度とする。）の出力電圧と 180 度±60 度の範囲の方向にある最大出力電圧の比をいい、dB で表す。